

日本医科大学附属病院 リウマチ膠原病内科 における肺高血圧診療のご紹介

私たちのグループは、我が国の膠原病関連肺高血圧症の臨床特徴と海外にはない相違点を明らかにし、この領域において国内をリードする業績を挙げてきました。

肺動脈性肺高血圧症では、肺血管拡張薬がもたらしたインパクトが大きく、現在11剤もの薬剤が使用可能です。一方で、膠原病の特殊性として、合併症の課題や免疫抑制療法との組み合わせによる寛解導入などが挙げられます。



以下の状態の方々を広く対象としております。

- ・ 確定診断がついた膠原病はもちろんのこと、何らかの免疫の疾患の症状あるいは検査値異常をお持ちの肺高血圧症の方

- ・ 肺高血圧症も「肺動脈性」だけでなく、「左心疾患によるもの」「呼吸器疾患によるもの」「慢性肺血栓塞栓症によるもの」「その他の疾患によるもの」など様々なタイプ

- ・ 平均肺動脈圧25mmHg以上の肺高血圧症の基準には達していないものの、21～24mmHgのいわゆる「境界型」の方

また、肺高血圧症はリウマチ・膠原病内科で診療を完結できるものではなく、当院の循環器内科心不全グループや国際医療福祉大学三田病院肺高血圧センターと連携して様々な試みを行い、治療成績の向上に尽力しています。

- ・ 2015年度診療実績 11例